

速報 国公立大『推薦型・総合型選抜』結果 (2月現在)

国公立大 **21名合格**

福島大7名 県立医大7名 会津大2名 新潟大等

今年度の国公立大入試もいよいよ大詰め。明日2/25(土)からは、全国一斉に、一般選抜の「前期日程試験」が行われます。国公立大入試は、3月の「後期日程(・中期日程)試験」まで続いていくことになります。今年は昨年以上に多くの3年生が出願をしています。全員の健闘を祈ります!

さて、今回は、すでに合格発表がなされた「国公立大の推薦型・総合型(AO)選抜」の結果をお知らせします。国公立大・私立大ともに、「推薦型・総合型選抜」の出願者が増えて、これまで以上の激戦でした。そのような状況にあっても、本校の3年生は健闘したと言えます。

私立大だけでなく、国公立大でも「推薦型・総合型選抜」が全定員の約3割まで拡大され、後期日程の廃止と前期日程の定員削減が進んでいます。ゆえに、これらの方式を有効活用することはとても重要です。しかし、「推薦型・総合型選抜」は難易度が高く適性が問われます。デメリットもかなり大きいので、全員にとって有効な方式ではありません。あくまで入試の主流は「一般選抜」です。

■ **推薦型 20名** *印は「共通テストを利用するタイプ」の入試

大学	学部・学類	学科	合格
福島大	人間発達	人文科学1 数理自然科学1 特別支援2	*4名
	経済経営		1名
	共生システム理工		1名
福島県立医科大	看護		2名
	保健科学	放射線1 臨床検査1 理学療法1 作業療法2	5名
会津大	コンピュータ理工		2名
茨城大	人文	人間文化	1名
新潟大	人文	人文	*1名
東京都立大	健康福祉	看護	1名
宮城大	事業構想	事業プランニング	*1名
高崎経済大	経済学部	経済学科	1名

■ **総合型(AO) 1名**

大学	学部	学科	合格
福島大	食農		1名

◎ **合格率低下 約39% ... 推薦型選抜は年々厳しさが増している**

国公立大の「推薦型・総合型入試」は大変難しい戦いです。各校から推薦された成績・人物・活動実績等の優秀な者が受験することに加え、近年、全国的に進学校がこれらの方式を積極的に活用しようとする傾向が強まっていることで、難易度が年々上昇しています。今年度、本校からは54名が受験し合格者は21名で、合格率は約39%でした(昨年度は約57%)。今年は、本校生にとって、かなり厳しい戦いだったと言えます。

国公立大の一般選抜は、「学力」の高さが最重要です。その難しさを考えると、学力以外の要素も評価される「推薦型・総合型選抜」は、挑戦する価値が大きいと言えます。しかし、試験には、「調査書(3年間の「評定平均値」)」と「志願理由書」に加え、「面接(教科の「口頭試問」)」、「小論文・総合問題(「英文読解や図表を含む現代文読解」)」や、学校によっては「共通テスト(5教科)」の得点が課されます。合格には、3年間の学習の成果に加え、部活動実績、校外での様々な探究的活動やボランティア等の実績、専攻したい学問分野に関する専門知識や一般教養が必要になります。さらに、一般選抜に向けての勉強も平行して行うため、心身の負担はかなり大きくなるでしょう。

◎ 「推薦型・総合型選抜」に合格するためには (国公立・私立大に共通)

校内外の顕著な活動実績 と 基礎学力 が必要

「推薦型・総合型選抜」に合格するには、以下に示すような点について、あらかじめ計画的に準備を進めておく必要があります。ゆえに、これらの試験への適性が重要になってきます。

★ **こんな人が推薦・総合型選抜に向いている**

- 調査書に記載される3年間の『評定平均値』が高い。 4.3以上A段階
*各大学の出願基準を十分に越えていること。人気の会津大は「全科目平均3.8以上」
- 『部活動』で活躍している。学校外での『ボランティア活動』・『探究的活動』・『医療体験実習』に取り組んで顕著な「活動実績」を残している。
*活動の証拠となる「賞状」、「実施要項」・「大会要項(登録選手名の記載があるもの)」は大事に保管しておく。出願時にコピー等の提出を求められることが多い。
- オープンキャンパスや大学説明会に自ら参加し情報を収集している。
- 『話す力』・『読む力』・『書く力』の3つの力を持っている(「英語」含む)
+ 時事問題・社会問題への興味・関心が高い
- 『英語外部検定試験』に挑戦し、3年夏までに『英検2級レベル』を獲得している
*推薦型の出願条件に、「英検準2級以上」や「スコア〇〇点以上」という大学が多い。「合格証」や「英検CSEスコア証明書」等の提出を求められることが多い。

❁新3年生 3月から意識を変えて行動を起こそう

「後悔先に立たず」



新学期までの家庭学習が3年での伸びにつながる

4月の始業日までの期間は、新3年生にとって大変貴重な時間です。高校入試に伴う休業日や春季休業が入ってきますから、時間をかけて2年間の学習内容を振り返り、苦手分野の克服をしたり、基礎基本を定着させたりすることが可能になります。一般的に受験勉強は「3年の夏休み」が大事と言われるますが、実際には、夏休みになるまでに一定のレベルまで到達していないと、本格的な勉強を始めることはできないのです。ゆえに、夏休みまでの時間に何をやっていたかが、その後の勝負を分けるのです。そして、その第一弾が「4月までの時間の有効活用」です。

3回の「共通テスト」を経験して明確になったことは、すべての科目で、「読解力」と「思考力」を問う問題が中心となり、単純に知識を問う問題や、公式に当てはめるだけで解答できる問題はほとんど出題されないということです。長い条件文と複数の図表を短時間に効率よく読解し、これまで学んだ知識を活用しながら推測していくといった高度な力が求められています。今後もこの出題傾向は続きます。対応するには、これまでの勉強法を根本的に改める必要があるでしょう。

□“やらされている感覚”から脱却せよ

英数国のレベルを上げて3年へ行こう

現在の2学年の模試の成績の状況を見ると、文系・理系ともに「英数国」の強化が最優先課題です。周囲から強制されなくても、自分にとって必要なことを自らやろうとする姿勢へと変わっていくことが大事です。まず、この春から、「自分で考える勉強」への転換を目指してみましょ。この期間は、各科目の課題に取り組むだけでなく、自主的な家庭学習を本格的に始めるべき時間です。2年次までの学習内容の復習を開始し、少しでも基礎力を上げて3年生に進みましょ。

① 過去2年間の本格的な復習を始める時がきた

● 教科書と副教材を使い「基礎基本」を身に着けよう

思考力・読解力を問われる大学受験でも、各科目の基礎・基本の定着は何より重要です。この2年間の教科書と副教材を活用した復習が最優先です。新たなものに手を出す必要はありません。

● これまでの模試と考査の問題を総復習しよう

過去の「定期考査」と「模試」の復習をするのが、受験勉強において最も効果的な方法の1つです。考査や模試では、各単元の重要度の高い問題が出題されていますから、全単元のポイントを効率的に復習することができます。特に、ふだんは部活動が忙しく、まとまった勉強時間が取れないという人にはこの方法を勧めます。この習慣が身につくと、部活動の引退後に着実に成績が伸びていくと思われれます。春休みは復習を始める最大のチャンスです。無駄にはしてはいけません。

② 春の勉強の成果を4月のテストで確認しよう

勉強の成果を確認するために、全国模試等のテストを受けて、自分の学力の相対的な位置を把握することは受験勉強の基本です。下記に示すとおり、春休み明けには大事なテストが予定されています。これらのテストを目標に、春の勉強に取り組むことを勧めます。

【4月のテスト予定】

- 4/11(火) 校内実力テスト
- 4/13(金)・14(土) 進研記述模試(5教科)

◆ 「国公立大の一般選抜日程」について学ぶ

3月1日から各大学で「前期日程試験」の合格発表が始まります。1、2年生も、これからの国公立大入試の流れを把握しておきましょう。合格状況については、3月下旬に発行する進路だよりでお知らせします。

前期日程合格発表 3/1(火)～10(木)

*一次試験である「共通テスト」の点数と、大学独自の「個別学力試験(二次試験)」の点数の合計によって、合格が判定されます。



合格



入学手続き



不合格



後期・中期日程試験へ進む

*前期日程で合格した場合はすぐに入学手続きを行います。手続き後は後期日程を受験できません。ゆえに、「第一志望」は、前期日程試験を受験するのが基本です。

*前期日程での合格者は受験をしないため、後期日程の欠席率は高くなります。「実質倍率」は最初の発表より大きく下がります。後期日程まで、あきらめないで受験勉強を継続することが大事です。本校では、卒業式後も個別指導を継続し、3月末まで3年生を支援します。



中期日程試験(一部の公立大のみ) 3/8(水)～



後期日程試験 3/12(日)～ *年々、廃止される大学も増えてきています。



後・中期日程合格発表 3/20(月)～24(金)



入学手続き



追加合格発表・2次募集 3/28(火)～

